

## 第4回 九州圏広域地方計画協議会 議事録

■日時：平成27年9月24日（木）10:00～11:40

■場所：福岡県中小企業振興センタービル 2階 大ホール



### 次 第

1. 開 会
2. 挨 拶
3. 議 事
  - (1) 新たな国土形成計画（全国計画）について
  - (2) 新たな九州圏広域地方計画の策定の流れ
  - (3) 新たな九州圏広域地方計画 中間整理（素案）について
  - (4) その他
4. 閉会

## 1. 開会

(事務局)

本日の司会を勤めさせていただきます、九州地方整備局 九州圏広域地方計画推進室の島峯と申します。よろしくお願いいたします。

それでは開会に当たりまして、国土交通省 西脇国土交通審議官より挨拶をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

## 2. 挨拶

(西脇国土交通審議官)

ご紹介いただきました、国土交通省の国土交通審議官の西脇でございます。会長の前に恐縮でございますが、ご指名でございますので、一言ご挨拶を申し上げたいと思います。

ご出席の各県、それから市町村、経済団体、関係省庁の皆様には平素から国土政策の推進に格段のご支援、ご協力を賜っておりますことに、心から感謝を申し上げたいと思います。また、九州圏の広域地方計画の策定に当たりまして、麻生会長の強力なリーダーシップの下に、皆様大変積極的に取り組んでいただいていると伺っております。重ねて御礼申し上げる次第でございます。

去る8月14日に新たな国土形成計画の全国計画が閣議決定をされました。この計画は今後概ね10年間の国土づくりのあり方を定めるものでございまして、その基本コンセプトは「コンパクト＋ネットワーク」でございます。それぞれの地域が個性を磨き、異なる個性を持つ各地域が連携する対流促進型国土の形成を目指すこととしておるところでございます。広域地方計画は、この全国計画を基本といたしまして、九州圏における骨太の圏域の構造とその実現に向けた具体的な取り組み方針を明らかにしたものでございまして、正に九州圏における「コンパクト＋ネットワーク」の姿と対流促進型国土の具体的な姿が明らかになっていくことが期待されているところでございます。

成長著しいアジアからの玄関口に位置します九州圏は、今後アジアの成長力を引き込む日本の成長センターとして、正に我が国の経済成長に貢献することが期待されております。既に、これまで進めてまいりました交通ネットワークの整備によるストック効果が、九州圏の各地域においても現れてきております。自動車産業の国内の主力生産拠点等の産業立地が進展いたしまして、アジアとの貿易額が著しく増加する。それからLCCの就航、クルーズ船の寄港等によりまして、訪日外国人が著しく増加しておるところでございます。また、今、会長からちょっとお話を伺いましたけれども、新たに農産物につきましても、海外に向けて戦略的に発信していこう、進出ししていこうというような動きがあると伺っております。こうしたヒト・モノの動きを捉えて、地域間の連携、対流によりまして、イノベーションを創出する視点からも議論を深めていただければと、存じております。我々といたしましても、ご出席の皆様と共に九州の各地域の強みを活かした、より具体的な九州の未来を展望した計画づくりに努力いたしますとともに、その実現に向けて関係各機関と連携を図ってまいります。

最後に本日ご出席の皆様方の益々のご健勝と九州圏の一層の発展を祈念いたしまして、冒頭簡単ではございますけれども、ご挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございました。続きまして、九州圏広域地方計画協議会、麻生会長よりご挨拶をいただきたいと存じます。麻生会長よろしくお願いいたします。

(麻生会長)

皆さんおはようございます。ただいまご紹介いただきました九州経済連合会の会長もしております麻生でございます。

先程、西脇審議官のご挨拶の中でもございましたけれども、この全国計画については昨年7月に策定した国土のグランドデザイン2050を踏まえて見直しを行い、8月14日に閣議決定をされております。その中には、九州地方整備局の方から「九州から新しい風を西から」という文言を入れていただいております。やはり全国的にも九州は違いますよというアピールをですね、東京でしていただいております。これは一部の方にはかなり本当に効果が上がっているというふうに思っています。私、安倍総理が今回の難しい法案を通して、この後は地方創生と経済だということを言われていて、我々が今現役で居る、その九州というものがこの先輩たちのおかげで、我々7県の知事が定期的に集まって、あるいは9県の知事が集まって、この九州を単県としての力だけではなく、九州アイランドとしてのアピールをして行こうという筋を、先輩たちが作ってきてくださっている。それで20年間このフラットなデフレになって、この立ち上がり、今、しそうになっている、大事な、総理としても経済再生、地方創生というものを非常にかけてらっしゃる中での九州のやりがい・責任は、我々現役は非常に大きなものとして、受け止めるべきだというふうに思います。ただ9月にもこの7県9県の知事が会って、佐賀県の古湯温泉で集まって九州戦略会議ということでやったんですけど、どうしてもやはり単県のアピールが先行している。ということで、私共こないだ東京で陳情して、北陸、東北、北海道なんかとやったんですけども、やはり大臣は「もうあんたたち、そんなおねだり止めなさいよ。これは地域間競争しているのよ。」「よ」と言っていると稲田さんと分かっちゃうけれど。政調会長がですね、やはりそういうような形で、有限の時間、有限の資金の中で、地域間競争をするというような思いでですね、我々今出会ってるんで、是非我々担当者がやはり明るさを持って、楽しみつつこのビジョンを作っていくという、そういう九州から日本を動かして行くんだというような心意気でですね、進めていきたいというような思いでございます。

新たな本日の議事であり、九州圏広域地方計画 中間整理の素案について、本年2月の骨子の公表以降、その取りまとめに当たり実務者会議や幹事会を開催して、また学識者のご意見などもいただいて、検討を進めてきております。この先、我々が色々なご意見をいただきながら、協議していただき、中間整理案ではこれからの九州圏を取り巻く様々な情勢や課題、今後の九州圏が目指すべき将来像の実現に向けての戦略目標などについて、プロジェクトについて整理をし、忌憚りの無いご意見を今日の会議でいただき、取りまとめていきたいというふうに思っております。また、今後のスケジュールについては、事務局から説明がありますが、本日の中間整理の案をご了承いただけましたら、来年3月の大臣決定に向けて、進めていきたいというふうになっておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。是非我々が本当に素晴らしい出会いを現役で、この九州に居るといって是非ですね、この日本がデフレ脱却するのかどうか、やはりこの「西からの風」が起こるようですね、こういう筋を先輩方が作ってくださっているんで、是非具体化・具現化、そして実行に移って、「九州見ろよ」というような形で、日本のひとつのお役に立つということが、単県だけじゃなくて九州アイランドとしてですね、東京との霞ヶ関とのタイアップによって進めていきたい、というようなことで、この本当に危機感を持って、この九州が動く、全国に先駆けて動く軽さを持って、まとまりを持っているわけですので、是非期待にこたえていく、それもストレスに思わないで、オポチュニティ（opportunity：機会。好機。）だと思って進めていきたいというふうに思っております。どうぞよろしくお願いをいたします。ありがとうございました。

#### （事務局）

ありがとうございました。

ここで報道関係の皆様にお願いがございます。これより報道関係者席にて取材をお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

まず、本日の協議会の定足数でございますが、構成員29名のうち22名の方々にご出席をいただいております。成立していることをご報告させていただきます。

次に、本日の資料の確認をさせていただきます。なお本日、会議への出席者につきましては、本来皆様方にご紹介すべきところではございますが、時間の関係もございまして、お手元に配布しております出席者名簿に変えさせていただきますと思います。

次にお手元の議事次第に資料一覧がございますが、配布しています資料のご確認をお願いいたします。資料1が新たな国土形成計画（全国計画）、資料2が新たな九州圏広域地方計画想定スケジュール、資料3が新たな九州圏広域地方計画における計画策定の流れ、資料4が新たな九州圏広域地方計画中間整理（素案）、資料5が九州圏広域地方計画に関するプロジェクト検討参考資料プロジェクト骨子（イメージ）、資料6が九州圏広域地方計画に関するプロジェクト検討参考資料説明図表（イメージ）でございます。また参考資料1が経済財政運営と改革の基本方針2015について、参考資料2が新たな九州圏広域地方計画中間整理（素案）説明資料でございます。また別冊で九州圏広域地方計画協議会関係資料を配布させていただいております。以上何か不足等ございましたら、事務局の方に申し付けていただければと思います。よろしいでしょうか。

それではこれより議事に入らせていただきます。ここからの進行につきましては、麻生会長にお願いしたいと存じます。麻生会長どうぞよろしく申し上げます。

### 3. 議事

#### （1）新たな国土形成計画（全国計画）について

（麻生会長）

それでは議長として議事に入らせていただきます。時間も有効に使いまして、限られた時間ありますので、議事1新たな国土形成計画（全国計画）について国土交通省本省より説明をいただき、関連いたしますので、引き続き議事2新たな九州圏広域地方計画の策定の流れ、および議事3新たな九州圏広域地方計画 中間整理（素案）については併せて事務局から説明いただき、その後、皆様から順番にご意見を賜り、最後に議事4その他、ということで進めさせていただきますというように考えております。

それでは議事1につきまして国土交通省本省から説明をいただき、引き続き2、3については事務局より説明をお願いいたします。

（北本官房審議官）

国土交通省の審議官をしております、北本と申します。まず私の方から、最新の全国計画につきまして、ご説明させていただきたいというふうに思います。

お手元の資料1でございますけれども、新たな国土形成計画のパンフレットの印刷原稿でございます。これを用いましてご説明させていただきたいというふうに思います。まず冒頭部分の4行ほどありますところは、今回の計画策定の時代認識を記述してございます。本格的な人口減少社会の到来、異次元の高齢化、巨大災害の切迫等、国土を取り巻く厳しい状況変化というものが見込まれているわけでございますが、その中で、我が国がこれからも経済成長を続け活力ある豊かな国として発展できるか否か、非常に重要な岐路に差し掛かっているという時代認識の基で、今後10年間の国づくりの方向性を定めるものとして、計画を策定したところでございます。

国土づくりの目標は3点でございます。安全で豊かさを実感することのできる国、経済成長を続ける活力ある国、国際社会の中で存在感を発揮する国。非常に厳しい状況変化といながらも、前向きといえますか、明るい目標を掲げさせていただいております。そのための国土の基本構想ということで、今回は対流促進型国土の形成ということでございます。対流といえますのは、中々耳慣れない言葉かと思っておりますけれども、風呂釜みたいなものを思い起こしていただきたいと思いますが、お風呂場の液体とか気体といった流体に温度差を与えることによって、流動が始まる。それが対流という現象でございますが、この温度差というものを個性の違い、各地域の個性

の違いというものに置き換えることによりまして、国土政策、地域政策にこの言葉を使ってございます。そこに書いてございますように、多様な個性を持つ様々な地域が相互に連携して生じる地域間のヒト、モノ、カネ、情報の双方向の活発な動きを対流というふうに呼んでございます。そのような対流、ヒト、モノ、カネ、情報の活発な流れ自体が地域に活力をもたらすだろう、と。加えまして、多様で異質な個性の交わり、結びつきによってイノベーション（新たな価値）を創出することも、期待しているところでございます。イノベーションと言いますと、一見難しい言葉のような印象を持たれるかも知れませんが、右の図をご覧いただきたいと思いますが、上の二つ目の上の楕円のところに、農山漁村地域ということで書かせていただいております。その左下の方に研究・教育地域、これは地方大学ですとか研究機関ですとか農業試験場でいいと思いますが、そういった地域を想定していただきたいと思いますが。こういった農山漁村地域、研究・教育地域というものが対流することによりまして、そこに例えば農林水産業のICT化というふうに書かせていただいておりますが、ICTを使いまして、より高付加価値な農作物を開発、あるいは安定的に量産する、あるいは新たな販売ルートを開発する、そういったものがこの計画ではイノベーションである、こういったものもイノベーションであると考えているところでございます。言い換えますと、地域外のヒト、モノ、カネ、あるいは情報、知恵ですとか、技術ですとか、そういったものを上手く取り入れていただきまして、その地域の生産性を上げるということでございます。平たく言えば、稼いでいただく、ということでございます。そういうものが対流によるイノベーションだというふうに考えてございます。冒頭申し上げましたように、人口がこれから更に減っていくことが想定されているわけでございますが、国土づくりの目標である経済成長を続けるためには、生産性を上げる、そのためにも稼げる地域、稼げる国土づくりというものを意識したのが、今回の国土計画の特徴のひとつというふうに考えてございます。そういった対流というものが、全国各地でダイナミックに沸き起こる、そういう国土形成をしていこうということで、対流促進型国土の形成というものを国土の基本構想としてございます。そして、そのための国土構造、地域構造といたしまして、そこに書いてございますが、重層的かつ強靱な「コンパクト+ネットワーク」というものを掲げてございます。コンパクト+ネットワークの事例が、最初の丸にございますように、生活に必要な各種機能ということでございまして、例えば日常に買物する商店ですとか、診療所ですとか、あるいは金融機能というATMですとか、ガソリンスタンド等もコンパクト+ネットワークでございます。人口が減少している、特に集落地域等におきましては、こういった機能を維持するために、機能を一定の地域にコンパクトに集約しまして、居住地域とネットワークをする。そういったことが人口減少社会の適用策として極めて重要ではないかということでございます。ただ右の図の注にも書いてございますように、居住機能の集約までを本来の目的とはしないこととしてございます。このようなコンパクト+ネットワークでございますが、こういった生活サービス機能のみならず、高次都市機能ですとか、国際業務機能等を維持・向上させていくためにはコンパクト+ネットワークの構造が有効だろうということで、このコンパクト+ネットワークは重層性を持つというふうに考えてございます。また災害に対しても強くしなやかな国土構造とするためには、代替性・多重性を持った強靱なコンパクト+ネットワークにする必要があるということでございます。更に対流促進型国土と称してございませぬけれども、そういったイノベーションを起こすためにも、個性を際立たせるための、産業などの密度の高い集積、コンパクトとネットワークが重要だなということで、今回、国土計画におきましては、コンパクト+ネットワークの国土構造、地理構造が必要だということでございます。これを基本コンセプトとしてございます。このようなことを通じまして、東京一極集中の是正というものを図っていくこととしてございます。

それでは恐縮ですが、お聞きいただきまして、見開きのところでございますけれども、ただいま申し上げました基本構造を実現するための具体的な方向性というものを、記述してございます。まず左上でございませぬけれども、最初に個性ある地方の創生ということで書かせていただいております。ここに五つほど丸がございませぬけれども、最初の丸が将来人口等を見据え、知恵を絞って

地域の将来像を構造的に考えることをございます。そのすぐ下の図に小さな拠点ですとかコンパクトシティ、連携中枢都市圏、集落地域、都市、都市圏の構造、コンパクト+ネットワークを图示してございますけれども、当然のことながら、地域の将来像といったものは、ここ九州圏の圏域以外でも、構造的に考えるのが極めて重要だというふうに考えてございます。この本日の協議会におきましても、是非この九州圏の圏域構造の将来像につきましても、議論いただきたいというふうに考えておるところでございます。そしてその二つ目の丸以下のところでございます。地域消費型産業の生産性の向上でありますとか、移輸出型産業の強化、海外展開、この移輸出型産業には、いわゆる工業製品のみならず、農産物ですとかあるいは木材といった第1次産業の産品というものも入っておりますけれども、そういったものの海外展開、あるいは地域発イノベーションの創出、人の対流の推進、こういったものが重要だ、こういったものは是非一つ目の丸の地域構造、圏域構造と是非絡めて考えていただく必要がある、この九州圏、コンパクト+ネットワークというストックを活かしていただきまして、いかに九州圏の産業を強化していくか、あるいは移輸出をしていくか、是非考えていただきたいというふうに考えているところでございます。

それから、その下のところが活力ある大都市圏の整備ということでございます。イノベーションを生む創造の場としての、機能向上ということでございます。それから、災害に強い安全・安心な大都市圏の形成、急増する高齢人口への対応等について記載してございます。その下がグローバルな活躍の拡大ということでございます。海外から投資を呼び込む事業環境の整備ということで、交通・情報通信基盤が高度に整備された都心街区ですとか、効率化・高度化された流通網などについて記載してございます。それからアジア・ユーラシアダイナミズムを取り込むゲートウェイ機能の強化と日本海・太平洋2面活用型国土の形成ですとか、観光立国などについて記載してございます。右上の方が、具体的方向性の②ということでございます。これは最初に、災害に対し粘り強くしなやかな国土の構築ということでございます。いわゆる国土強靱化ということでございます。想定外の事態にも対応できるように、ハード対策とソフト対策の適切な組み合わせ、あるいはその多重性・代替性の確保等について記載してございます。その次の国土の適切な管理ということ、いわゆる国土管理ということでございますけれども、人口減少、財政制約ということ、いかに国土を荒廃させずに管理するかという課題でございます。4つ目の丸にございますように、複合的な効果をもたらす施策の推進でありますとか、国土の選択的利用、国土の国民的経営について記載してございます。その次のところが、国土基盤の維持・整備・活用ということで、まずは「ストック効果」が最大限発揮されるような戦略的取組というものが重要でございます。是非この協議会でも検討いただきたいというふうに考えているところでございます。最後に、その下に具体的方向性③ということでございますけれども、国土づくりを支える参画と連携といたしまして、地域を支える担い手の育成ですとか、共助社会づくりについて記載しているところでございます。その右のところに、広域地方計画の策定・推進ということで、実は先程、麻生会長の方からご紹介ございましたけれども、各圏ごとに担当を書いてございます。九州圏につきましても、アジアの成長力を引き込む日本の成長センターとか、我が国の経済成長に貢献する、そういったことが期待されるという書きぶりをさせていただいているところでございます。最後に4頁のところ、新たな計画策定の背景について記述しております。こちらの方は省略させていただきます。

以上、国土形成計画の全国計画について紹介させていただきました。これを基本としながら、九州圏の広域地方計画について、活発なご議論をお願いしたいというふうに思います。私からは以上でございます。

## **(2) 新たな九州圏広域地方計画の策定の流れ**

### **事務局（長谷川推進室長）**

九州圏広域地方計画推進室室長の長谷川です。私からは議事2、および議事3について説明させていただきます。

まず資料2をご覧ください。新たな九州圏広域地方計画の想定スケジュールをまとめております。表の左側、赤で着色した部分が全国計画、右の緑で着色した部分が広域地方計画のスケジュールとなっております。新たな九州圏広域地方計画につきましては、本年2月に計画の方針や目標を定める骨子を作成し、公表したところです。その後、今年度に入りまして、中ほど右側に書いてありますが、広域地方計画のストック効果へのご理解を深めていただくことを目的といたしまして、九州地域戦略シンポジウムを福岡・宮崎・長崎でそれぞれ開催しております。また計画の骨組みである骨子を文章化した中間整理を策定するため、これまで当協議会の実務者会議、幹事会、そして学識者懇談会においても議論を重ねてまいりました。本日の協議会では、中ほど赤枠で囲ったところで中間整理としてありますが、来月行う予定の市町村計画提案募集の参考とされる中間整理等の資料につきまして、ご議論いただき、ご了承をいただきましたうえで、地域の皆様からご意見をいただく市町村計画提案募集の手続きを進めていくこととなります。そして年明けには計画原案のご審議・ご了承をいただくため協議会を開催させていただきまして、パブリックコメント等の手続きを経て、年度末に国土交通大臣の決定を予定しているところでございます。

次に資料3をご覧ください。計画策定の流れを整理しております。2月に策定いたしました(1)の骨子、そして本日ご議論いただく(2)の中間整理、来年3月策定予定の(3)の計画原案につきまして、それぞれの段階における書きぶりについて説明しております。(1)の骨子では九州圏の現状と課題、九州圏の将来像、九州圏の5つの戦略など、計画策定上、重要な骨組みを示しております。本日は赤枠で囲んだ(2)の中間整理をご議論いただくこととなります。中間整理は骨子を文章化したものですが、中ほど下においてあります新たな九州圏広域地方計画の構成の第4章、赤でプロジェクトと書いてありますが、この部分につきましては、概要、つまり目的とコンセプトのみの記載となり、プロジェクトを支える個別事業は原則記載しないこととなっております。最終的な(3)の計画原案では、第4章をしっかりと書き加えることとなります。中ほどのポンチ絵におきまして、そのプロセスを分かりやすく示しております。以上、議事2についてご説明をさせていただきました。

### **(3) 新たな九州圏広域地方計画 中間整理(素案)について**

#### **事務局(長谷川推進室長)**

引き続き、議事3の新たな九州圏広域地方計画 中間整理(素案)につきまして、ご説明をさせていただきます。市町村への計画提案を募集する際の参考資料は、配布資料の資料4・5・6ですが、本日は限られた時間で説明させていただくため、これらの資料の重要な部分を集約いたしました参考資料2により、説明させていただきます。

表紙を開いていただきまして、1頁をご覧ください。最初に新たな九州圏広域地方計画の体系図を示しております。全体は第1章から第5章までの5章立てとなっております。第1章では計画策定の意義と計画の性格を、第2章では九州圏を取り巻く情勢と課題を整理しまして、これを踏まえて、第3章では九州圏の将来像を描き、その将来像の実現に向けた5つの戦略を第4章で掲げております。最後、第5章で計画の効果的な推進について記載しております。

次に2頁をご覧ください。第1章計画策定の意義と計画の性格です。計画策定の意義につきましては、先程、全国計画の説明にもありましたが、全国共通の課題である急激な人口減少、巨大災害の切迫等、国土を取り巻く時代の潮流と課題に適切に対応するということが、また、九州圏はそれに加えまして、九州圏固有の情勢として、現行の九州圏広域地方計画で想定していた以上に、近接するアジアの高い経済成長にともなう産業等の活性化が見られ、これにしっかり対応することが求められているということでもあります。計画の性格につきましては、広域地方計画は21世紀の前半期、2050年頃までを展望しつつ、今後概ね10年間の九州圏のグランドデザインを取りまとめた計画であり、全国計画を基本として、国土形成の方針や目標、特色ある戦略を描く性格の計画となっております。

次に3頁をご覧ください。ここからは第2章九州圏の現状と課題について取りまとめております。まず(1)、九州の概要です。九州は地理的に、アジアから日本列島への玄関口(ゲートウェイ)に位置しており、古来より交流の窓口の役割を担い、日本の近代化の原動力としても大きな役割を果たしてきております。

また、九州圏は、地理的状況からも域内の相互関係が強く、比較的自立度の高い圏域であり、近年、インフラの整備が一定程度進展し、次第にポテンシャルが顕在化しているところであります。下の図では福岡を中心に国内外の主要都市との距離を示した図や、九州新幹線の全線開業や高速道路、空港、港湾等の整備状況を表した地図等を掲げております。

4頁をご覧ください。現状と課題の(2)、九州圏の人口動向です。九州圏の人口は全国の約1割であり、左上の折れ線グラフで示しているとおおり、減少傾向ではありますが、出生率は、その下の折れ線グラフで示しているとおおり、各県とも全国値より高く、全国上位30位のうち、29の市町村が九州・沖縄で占めております。また高次都市機能の充実した福岡市への人口集中が進んでおり、右側の折れ線グラフをご覧くださいますと、福岡市は人口増加率、若者率ともに政令指定都市中第1位となっております。九州圏全体の人口は減少傾向にありますが、中ほどの地図に示していますとおおり、福岡市は九州からの人口流出に対してのダム効果を発揮しており、また他の県庁所在市も一定のダム効果を発揮しているところです。右下には人口減少に対する地域の取組が効果をあげている例を記載しておりますが、一例でありまして、このほかにも九州各県で人口減少に対する様々な取組が行われております。今後の課題としては、就学・就業環境の制約から、生産年齢人口が地域外に流出しているため、大学教育や雇用機会の充実、交流人口の拡大等の取組が重要となっているところであります。

5頁をご覧ください。現状と課題の(3)、九州の成長産業です。九州圏の域内総生産額は44兆円であり、全国の約1割です。内訳としては、自動車、船舶等の輸送用機械製造業が多く、また成長期待産業の集積も進展しているところです。自動車産業につきましては、4社の完成車工場とそれを支える多数のサプライヤーが立地しており、国内有数の自動車生産拠点となっております。また、環境・リサイクル関連産業、エネルギー関連産業、ロボット関連産業の立地、先端医療関連産業、コンテンツ関連産業等の成長期待産業の集積のほか、再生可能エネルギーの開発ポテンシャルも高く、関連施設の立地が進展しているところです。右の地図は、成長期待産業等の集積の状況、また関連する特区エリアを表しております。

次に6頁をご覧ください。現状と課題の(4)、九州の農林水産業です。農林水産業の産出額は全国の約2割となっております。九州圏は温暖な気候、そして豊富な降水量や日照に恵まれていることから、安定供給の強みもあり、我が国の一大食料供給基地となっております。特に肉用牛、海面養殖業については全国の4割を超えており、林業の産出額は全国の約2割となっております。海外展開については、近年九州一丸となった農林水産品の輸出の取組により、5年間で約1.3倍に伸びているところであり、左の3つの円グラフで示しますとおおり、牛肉、冷凍ブリの切り身、イチゴ等の輸出については、福岡空港と博多港を使い分け、過去最高を記録しております。また、林業では、アジア諸国の需要拡大を受け、南部九州の主要港からの木材輸出量が急激に増加しており、全国の約8割を占めている状況です。農業生産法人数については、中ほどのグラフで示しますとおおり、鹿児島県が全国3位、そして6次産業化の認定件数は宮崎県が全国4位となっております。いずれからも九州が6次産業化の先進圏域ということがいえるかと思えます。右の地図は九州圏における主だった農水産物の産出状況を示しております。今後は九州の農林水産業の強みを活かしつつ、農産物の加工や道の駅を活用した直売の取組、更なる6次産業化などの高付加価値化により、更なる成長を図ることが必要となっているところです。

次に7頁をご覧ください。現状と課題の(5)、九州の通商・貿易です。九州とアジア、あるいは九州と世界の貿易額は自動車や鉄鋼等を中心に、10年間で約1.7倍に拡大しております。東南アジア等との経済交流に関する覚え書きの締結が進み、経済連携が拡大していることについても右の地図で示しております。外貨コンテナの取り扱いも過去最高で、博多港の荷役量も増加して

いることも、それぞれ下のグラフで示しております。また、日韓の相互通行を可能とするダブルナンバー車両によるフェリー輸送など、新しい形態の国際物流が確立されつつあります。

次に8頁をご覧ください。現状と課題の(6)、九州の観光・交流のうち国内観光です。東九州自動車道の整備効果が大きく、左の地図と横の棒グラフをご覧くださいますと、今年3月の大分市から宮崎間の開通に伴い、両県の主要観光施設の入込客数が大幅に増加している状況を示しております。また、九州新幹線の開業効果も大きく、中ほどの地図をご覧くださいのとおり、観光入込客数や宿泊客数が増加し、また、新幹線駅からのレンタカーによる周遊観光も増加しています。さらに、九州一丸となった観光振興を促進するため、九州アジア観光アイランド総合特区によるガイドの育成、各県知事によるトップセールス、広域観光周遊ルートの形成の促進等が展開されているところであります。

9頁をご覧ください。九州の観光・交流のうち、国際観光です。外国人入国者数は、左の棒グラフに示しますとおり、ここ5・6年で約1.9倍に増加し、過去最高を記録しているほか、クルーズ船の寄港回数も全国の約4割を占め、右下の表に示しますとおり、港湾の外国人入国者数については、上位5港のうち4つの港が九州となっております。また、中ほど下の地図で示しますとおり、LCCの就航が相次ぐほか、全国3位の旅客数を誇る福岡空港は、過密化が顕著となっている現状であります。更に国際会議開催件数については、5年連続で東京に次ぐ全国2位で、留学生の数については、この5年間で約1.4倍となっていることをそれぞれ左のグラフで示しております。

次に10頁をご覧ください。現状と課題の(7)、九州の災害と自然環境です。九州は風水害、土砂災害、火山災害、そして南海トラフ巨大地震などの災害リスクが存在しており、近年では2012年の九州北部豪雨等の豪雨災害、そして桜島や阿蘇山等の火山の活発化が見られるほか、南海トラフ巨大地震については、大分県・宮崎県において、最大津波高17mの津波被害が想定されていることから、ハード、ソフトの対策の組み合わせによる災害への対応力を強化していく必要があります。反面、こうした九州における特性は、豊かで美しい風景、貴重な生態系、自然環境や温泉など多くの恵みをもたらしております。今後、地域を支える社会基盤の持続可能性を確保するため、インフラの総合的な老朽化対策を推進していくこととしております。

次に11頁をご覧ください。11頁からは以上の九州圏の現状と課題を踏まえた第3章九州圏の将来像について、3つの柱立てをしてしております。まず第1の柱、(1)日本の成長センター「ゲートウェイ九州」の形成です。下の地図で示すとおり、世界の成長センターであるアジア地域の成長力を引き込む日本の成長センター「ゲートウェイ九州」となって、日本の経済成長に貢献することを目指すということでございます。そのため、グローバル人材の育成、ハード・ソフトが一体となった来訪環境の整備、交流基盤の拡大、産業振興による地域活性化を推進していくこととしております。また、農林水産物等の九州ブランド化による高付加価値化やフード&観光アイランドの形成を促進していくこととしております。さらに、ゲートウェイ効果を国内に波及するため、西瀬戸内海、豊後水道、関門海峡を介した中国圏、四国圏をはじめ、各圏域との交流連携を強化するとともに、圏域内の多様な観光交流や地域づくりを促進していくこととしております。

次に12頁をご覧ください。将来像の第2の柱、(2)三層の重層的な圏域構造からなる「元気な九州圏」の確立です。九州圏の特徴として、各県庁所在都市を中心に、一定規模のまとまりと高次都市機能が集積している基幹都市が適度な間隔で分散しており、加えて基幹都市を補完する拠点都市も適度な間隔で分散しているという特徴があることから、この特徴を活かして、一体的な発展を促すとともに、各地域が高次都市機能から生活支援機能まで一定の社会的サービスや就業機会を確保し、豊かな生活を実現するため、三層からなる重層的な圏域構造の形成を目指そうというものです。三層について補足しますと、九州基幹都市連携圏については、左の図で示しますとおり、ブロック中枢都市・福岡をはじめとする基幹都市の高次都市機能の向上・連携により、九州の成長基盤を形成するものです。都市自然交流圏については、中ほど上段の図で示しますとおり、都市と農山漁村等を含む圏域において、コンパクト化とネットワークによる都市と自然地

域との交流と相互貢献による共生を図るもので、基幹都市やそれに次ぐ都市機能を有する拠点都市がその中核を担うこととなります。基礎生活圏は、中ほど中段の図で示すとおり、集落地域等がネットワークで構成される基礎的な圏域において、暮らしやすい生活環境の保全と生活支援機能の維持を図るもので、このような基礎生活圏における中核機能を担う都市として、生活中心都市や、それを補完する旧役場や道の駅からなる小さな拠点が中ほどの下段にイメージ図として示していますが、そういった拠点が想定されるどころです。これらの三層の重層的な圏域構造を形成し、圏域内の連携の強化を図り、九州圏の総合力を高め、支えあう元気な九州を確立するものです。

次に13頁をご覧ください。将来像の第3の柱、(3)巨大災害対策や環境調和を発展の原動力とする「美しく強い九州」の確立です。頻発する風水害、土砂災害、火山災害や巨大災害への対応力をハード・ソフトの対策により確立しようというものです。そのため、防災の主流化への取組や社会資本の老朽化対策等により、地域を支える社会基盤の持続可能性を確保していくというものです。また、美しく豊かな自然環境の保全と適切な活用、環境負荷低減等の取組、そして環境・エネルギー産業を活性化していこうというものです。左下には南海トラフ巨大地震による津波被災エリアの想定と、被災地への支援に関する図を示しており、また右下には水素エネルギーの研究開発を進める福岡水素戦略の概略を示しております。

次に14頁をご覧ください。3つに柱立てをしました将来像と、将来像の実現に向けた5つの戦略の関係図を示しております。

15頁をご覧ください。ここからは第4章九州圏の将来像の実現に向けた5つの戦略とそれを支える12のプロジェクトを記載しております。各プロジェクトについては、現時点における関係機関の施策の例示であり、今後計画策定にあたっては、関係機関と協議を行い、記載内容を具体化していくこととしております。

16頁をご覧ください。第1の戦略、アジアゲートウェイ機能の強化の一つ目のプロジェクト、①として、アジアとの交流・連携を促進する「ゲートウェイ九州」の形成プロジェクトです。具体的な内容として、写真や図で紹介しておりますが、大きく分けて、中ほどの枠囲みのなかで、青字で書いています、アジアとの国際交流・連携の一層の促進、及び総合的なゲートウェイ機能の育成についての各種取組について記載しており、前者については、右側のグリーンアジア国際戦略総合特区の取組、その下の、国家戦略特区「福岡市グローバル創業・雇用創出特区」の取組、またその下の、熊本市のMICE施設整備等があり、後者では港湾・空港における物流・人流の機能強化ということで、図や写真を紹介しております。

次に17頁をご覧ください。第1の戦略の二つ目のプロジェクト、②として、国内各圏域との交流・連携の強化プロジェクトです。中ほど枠囲みの青字で書いています取組で、各圏域との連携、フードアイランド九州や観光アイランド九州の形成、クルーズ船誘致促進や受入体制の整備の取組を掲げており、事例として「温泉アイランド九州 広域観光周遊ルート」を紹介しております。

次に18頁をご覧ください。第2の戦略、九州圏の活力を創出する交流・連携の促進の一つ目のプロジェクト、③として、九州圏に活力をもたらす交流・連携の促進プロジェクトです。大きく二つに分けており、九州固有の自然環境、歴史、文化、風土や水、景観等を活用した交流・連携の促進、そして交通ネットワーク等の形成による交流・連携の促進です。世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」の保全活動や九州観光プロモーション派遣団によるトップセールスを事例として紹介しております。

次に19頁をご覧ください。第2の戦略の二つ目のプロジェクト、④として、九州圏の交流・連携を促進するネットワーク基盤の整備プロジェクトです。ここでは高速道路の整備状況や九州新幹線西九州ルート of 整備状況等を取組事例として図や写真を紹介しております。

次に20頁をご覧ください。第3の戦略、九州圏の基幹産業や地域産業の活性化の一つ目のプロジェクト、⑤として、九州を支える基幹産業の発展と活性化プロジェクトです。ここでは自動車関連産業をはじめ、エネルギー、医療など九州を支える基幹産業、成長産業の発展と活性化を目指

した取組を掲げており、東九州メディカルバレー構想特区等の事例を紹介しております。

次に 21 頁をご覧ください。第 3 の戦略の二つ目のプロジェクト、⑥として、高度なニーズにこたえる農林水産業や地域産業の新たな展開プロジェクトです。ここでは成長産業化に向けた協力・連携、九州ブランドの育成、産地直販の展開等の取組を掲げており、九州一丸となった農林水産物の輸出商談会の取組や 6 次産業化推進会議等の取組事例を紹介しております。

次に 22 頁をご覧ください。第 4 の戦略、九州圏の圏域機能の向上と連携の強化の一つ目のプロジェクト、⑦として、九州圏の活力源となる高次都市機能の向上と連携の強化プロジェクトです。ここでは対流促進型圏土構造の極となる基幹都市圏の形成、人や物の交流・連携の原動力となるコンパクトシティの形成等の取組を掲げております。

23 頁をご覧ください。第 4 の戦略の二つ目のプロジェクト、⑧として、都市と農山漁村の連携の強化と生活環境の向上プロジェクトです。ここでは都市自然交流圏の拠点となる拠点都市の都市機能の充実・強化、そして基礎生活圏における基本的な医療・福祉、教育等の生活支援機能サービスの確保・充実などの取組をまとめております。

24 頁をご覧ください。第 4 の戦略の三つ目のプロジェクト、⑨として、離島・半島、中山間地域等の活力の維持と向上を図る定住環境の形成プロジェクトです。ここでは地理的制約を克服する生活基盤の維持・向上、離島地域における海洋性気候等に恵まれた豊かな定住環境の形成、そして地域資源を活かした地域活性化の促進に関する取組をまとめております。

25 頁をご覧ください。第 4 の戦略の四つ目のプロジェクト、⑩として、九州の活力を担う人材の地産地活プロジェクトです。ここでは地方創生人材の「地活」の促進、地方移住、二地域居住等の受入環境づくり等の取組を掲げており、鹿児島県の都市農村交流の事例等を紹介しております。

26 頁をご覧ください。最後の戦略となります。第 5 の戦略、九州圏の安全・安心の確保と自然環境・国土の保全の一つ目のプロジェクト、⑪として、巨大災害などへの対応力の強化プロジェクトです。ここでは防災・減災対策の強力な推進、災害に対する広域連携体制及び支援の強化、またインフラ長寿命化計画策定の取組等を掲げており、整備局の緊急災害対策派遣隊 T E C - F O R C E 等の事例をご紹介します。

27 頁をご覧ください。第 5 の戦略の二つ目のプロジェクト、⑫として、環境負荷の軽減と自然環境・国土の保全プロジェクトです。ここでは地域資源を活かした再生可能エネルギーの導入、また美しく自然豊かな環境・景観に親しみ継承していく地域づくり等の取組を掲げております。以上が、九州圏の将来像の実現に向けた九州圏の 5 つの戦略とそれを支える 12 のプロジェクトについてご説明させていただきました。具体的な取組内容については、これから市町村計画提案を行いながら、また地域の皆様のご意見も踏まえながら、計画策定を進めてまいります。

最後 28 頁ですが、第 5 章計画の効果的な推進について記載しております。以上、時間の制約上、駆け足のご説明となりましたが、議事 2 および 3 につきまして事務局からの説明とさせていただきます。

**(麻生会長)**

ありがとうございました。

長谷川室長に発表していただきましたけど、色んな各県、色んな強みというか、全国的にも一割経済の九州が、こういうところじゃつかかってますよというような、ヒントやら現実を教えていただいて、色々元気のつくようなことを、九州地方整備局から教えていただきましてありがとうございました。

今の室長および事務局からのご説明に対しまして、皆様方にご意見を賜りたいと思います。時間の関係もございまして、恐縮ですがご意見については福岡県から、私、指名させていただきますので、1 分間位でお願いしたいというふうにお願いいたします。なお、運輸局と整備局は最

後にお話をお願いいたします。

では福岡県から

#### (福岡県)

冒頭のご挨拶で、西脇国土交通審議官から、全国計画の中で、九州はこれから急速に経済成長しているアジア諸国を背景に、日本全体を引っ張っていく成長センターとして期待をされている、という記載があるということで、ありがたいと受け止めております。また、麻生会長が言われました通り、このアジアの成長力を積極的に取り込んで、九州、ひいては我が国が持続的に発展していくことが、求められていると強く感じているところです。

私共も、福岡市さんや北九州市さんと一緒に地方創生の中で総合戦略を策定しているわけなんですけれども、そのような中で、このアジアの成長を取り込みながら、魅力ある雇用の場を創出していくこと、また、地域産業を活性化していくことが重要であるというふうに考えております。また農林水産業についてもブランド化や6次産業化を進めながら、輸出拡大にも取り組んでいきたいと思っているところなんですけれども、県単独の取組では海外の消費者ニーズに応えられる品揃え等も難しいというのもありまして、九州一体となって輸出に取り組んでいくことが必要だというふうに考えております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

この中間整理の中には、その他にも重要な観光アイランド九州の形成だとか、九州一体となった70歳現役社会づくりの促進など、細かいところも多々盛り込まれておりまして、国の関係機関の皆様、また経済界の皆様と連携し、本県でもしっかりと進めてまいりたいと考えております。以上でございます。

#### (麻生会長)

ありがとうございました。では佐賀県お願いします。

#### (佐賀県)

ありがとうございます。まず中間整理の取りまとめにあたりまして、本県の方から何点か意見を提出させていただきました。その項目につきましては、反映をさせていただきまして、まずはお礼を申し上げたいと思います。

資料3の説明の中で、触れられましたと思いますけれども、今回の中間整理に個別事業は原則記載をしないということで、今後の計画原案を策定していくにあたって個別事業を含めて文章化をしていくということでございますので、また本県も関係します個別の話については色々ご相談をさせていただきたいと思っております。あわせまして、今回の中間整理の中でも17頁の中にもオリンピック・パラリンピックに向けてということでご紹介がございましたけれども、今後は九州各県に起きましても2020年の東京のオリパラに向けて色んな取組というものも計画をされているというふうに思います。私共佐賀県もそういう意識でおります。従いまして、今後、広域地方計画を策定していくにあたって、本県についてもひとつのプロジェクトということでもっていこうかと考えていますし、今後の計画原案作成にあたっては是非議論させていただければと思います。以上でございます。

#### (麻生会長)

ありがとうございました。長崎県お願いします。

#### (長崎県)

長崎県でございます。何点か申し上げさせていただきます。まず、「九州はアジアからのゲートウェイとしての機能を強化していきます」とあり、地方空港を活用していくことが必要であります。そのために、CIQ体制の整備の他、国際線ターミナルビルの拡充等について、積極的に取

り組んでいく必要があると考えております。

また、島原半島、天草、そして長島にいたります九州西岸地域というのは、世界文化遺産の登録を目指しております「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」を始めとします観光資源に恵まれますと共に、農水産物の供給地として発展の可能性も有しております。しかしながら、交通の面は整備されていない等、地域間連携による振興策を推進することが困難な状況にありますので、その潜在力を活かしまして、九州圏全域の活力を創出するには、取り組み推進する必要があると考えております。

また、本県は I R の導入についても推進しているところではございますが、I R を機にいたしまして、九州の魅力の世界に発信して、九州の隅々まで観光客の周遊という取組を推進する必要があると考えております。最後に、海洋再生可能エネルギーの関係でございませけれども、本県では来年度にも運用主体の設立ですとか、実証フィールドの運用開始を目指しております、今後、産学官連携によります、関連分野の産業集積拠点の形成につなげていく必要があると考えてございます。この計画原案の策定におきましては、以上の点にご配慮をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

#### (麻生会長)

それでは、熊本県、次お願いします。

#### (熊本県)

熊本県でございます。この中間整理に向けまして、色々と意見を出ささせていただきましたけれども、意を汲んでいただき、きれいに整理していただきまして、本当に心から感謝を申し上げます。特に今日、参考資料 2 を見まして、非常に分かりやすく、私たちも使わせていただければということで、特に 12 頁の図、熊本は中央にあつて、九州のために何かしなくてはならないといつも考えているわけです。次の頁を開けていただきますと、災害のときに、熊本から色々矢印が出ておりまして、支援をしていくということで、災害の際の広域防災拠点として頑張ろうと思っております。そういう意味で今後、計画原案の策定に当たっては、例えば 19 頁には道路の整備状況というものがございますけれども、横軸として防災拠点の中で取り組んでいくときに、延岡線とか、中九州横断道路の整備が是非とも必要となつてまいりますので、例えば 26 頁の災害に対する広域連携体制とか、ネットワークのところ、こういった横軸の整備の加速化がうたわれるとありがたいと思つているところです。以上です。

#### (麻生会長)

ありがとうございます。では九州市長会、鹿児島市長お願いします。

#### (九州市長会)

それでは、九州市長会を代表して申し上げたいと思います。先ほど、中間整理素案の中で色々と話をお伺いしました。12 のプロジェクトを掲げてございますけれども、その中の 18 頁、九州圏に活力をもたらす交流・連携の促進プロジェクトの中で、世界文化遺産のことが記載されております。九州は豊かな自然や温泉も多く、またここに記載がありますように、7 月に世界文化遺産に登録されました「明治日本の産業革命遺産」など、個性ある魅力的な地域資源を多く有しております。これらを活かした観光振興は九州の経済の活性化に大変資する重要なテーマだと思っております。特に「明治日本の産業革命遺産」の構成資産は 8 県 11 市でございますけれども、この内 5 県 8 市は九州の自治体でありますし、今後、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」、「宗像・沖ノ島と関連遺産群」が世界文化遺産になりますと、更に九州の観光資源としての価値が相当高まると思っておりますので、こういう九州内の世界文化遺産や世界文化遺産候補の構成資産にストーリー性を持たせて、地域の魅力を最大限に活かしてほし

いと思っております。

またもうひとつは、26 頁ですが、やはり災害に対する対策をしっかり進めてほしいと思います。今年の 5 月の鹿児島県屋久島町の口永良部島の噴火警戒レベル 5 や、また鹿児島市にあります桜島の火山噴火警戒レベル 4 への引き上げなど、大変活動が活発化しております。また全国的にも大変災害が頻繁に発生しており、自然災害へのリスクが大変高まっているところでございます。また一方では、こういった災害が頻繁に起こるということで、観光にも大変影響が出てきておりまして、風評被害等による多くの観光客の方の危惧を懸念しているところでございます。それらの対策もお願いしたいと思っております。以上でございます。

**(麻生会長)**

ありがとうございました。それでは宮崎県お願いします。

**(宮崎県)**

私の方からは 2 点程です。

1 点は先程も出ましたけれども、高速道路ネットワークの未整備区間のストック整備というものを、大きな課題として明確にあげていただけないかなと。

あともう 1 点は、世界遺産等々の取組について、これはもう宮崎もやっているのですが、自分のところの話だと会長からお叱りを受けてはいけませんけれども、そうではなくて「九州の魅力」という意味において、今、私共やっておりますけれども、そういったものについてはできる限りひろっていただいて、それを明示することによって、やはり非常に力がくると思いますので、その 2 点をお願いしたいと。

**(麻生会長)**

ありがとうございました。大分県お願いします。

**(大分県)**

先ほど、東九州自動車道の開通効果の話も出ていたところですが、本県は関西の瀬戸内航路とか四国の航路を持っておりまして、九州の東の玄関口としての機能を持っているところでございます。そういったことで、今回の東九州自動車道の開通によりまして、人の流れ、物の流れが流動化することが期待されており、東九州の玄関口としてのポテンシャルが高まってきたのではないかと思います。今後、高まったポテンシャルを活かしながら九州アイランド一丸となった発展のために、九州各県の連携を深め、四国との連携も視野に入れながら、観光振興の促進とか産業の振興等に関わる必要があるのではないかと考えております。以上でございます。

**(麻生会長)**

ありがとうございました。鹿児島県お願いします。

**(鹿児島県)**

鹿児島県です。まず、九州圏の交流連携を促進するネットワーク基盤の整備ということでございますけれども、九州圏の持つ、優れた地域特性を活かして、一体的な浮揚発展を図っていくための課題になるわけですが、特に社会資本整備が遅れております地域におけます高規格幹線道路の重点的な整備促進、これが喫緊の課題だというふうに思っております。8 月に国において決定された新たな国土計画におきましても、道路ネットワークのミッシングリンクの解消という推進がうたわれておりますので、是非この点に関しまして、九州の一体的な発展を実現する観点からも、ミッシングリンクの存在する地域につきまして、集中的な整備をお願いしたいと思

ております。それから2点目ですが、先程、鹿児島市長からありましたけれども、「明治日本の産業革命遺産」ということで、今年7月、世界文化遺産登録されました。鹿児島県におきましては、あと「屋久島」と、それから早ければ平成30年になる見込みですけれども、「奄美・琉球」ということで、沖縄県と連携して世界自然遺産の方も登録を進めているところでございますが、何が問題かといいますと、世界から人を呼び込めるようなプロジェクトを是非連携した形で作っていきたいと思っております。そのことが、広域的な観光ネットワークにつながっていくと思っておりますので、是非九州のこういった資源を有効に活用させていただきながら、基本的な観光資源として活かしていきたいと思っております。

もう一点最後に、鹿児島の場合は、離島が多いわけでございますけれども、「奄美群島振興交付金」という形で離島に特化した資金も整備いただいておりますので、是非離島地域の定住環境の形成、こういった観点からも是非取り組んでいただければと思っております。よろしく申し上げます。

(麻生会長)

ありがとうございました。北九州市申し上げます。

(北九州市)

北九州市でございます。北九州市の場合は、東九州道、それから北九州空港、それから下関と北九州の間で新たな道路をという話もございます。それからちょっと方向を変えますと、G7のエネルギー大臣会合を北九州市で開催していただけるようになりました。それから、各自治体さんも言われている世界遺産の関係もあるのですが、こういったことをしっかり引き続き取り組んでいくことによって、九州全体の発展に北九州市も頑張らないといけないというふうなことを、今日会議に参加させていただいて、改めて自覚したところでございます。冒頭、麻生会長の方から「各自治体のエゴは捨てんと駄目よ」という主旨の発言があったと思っておりますけれども、最近TVのニュースでそういったふうなことを感じる機会がありました。沖縄の知事さんが国連で演説されて、日本政府がそれに反論すると。これは本当どこか近くの違う国の話かなというふうなことを思ったんです。こんなことがずっと続くと日本はうちの国に対して「お前のとこ人権しっかりやれよ」というふうなことを言えなくなるのではないかというふうなことを思いまして、日本こそしっかりしなければいけないと思っていたところ、会長が冒頭、エゴを捨てろということをおっしゃったので、ついついそのニュースを思い出しました。以上です。

(麻生会長)

そんな強く言ったかなあ。ありがとうございます。福岡市申し上げます。

(福岡市)

福岡市でございます。素案でも随所に盛り込んでいただいておりますが、平素より福岡市の国家戦略特区「グローバル創業・雇用創出特区」の推進につきまして、ご理解・ご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。昨年5月に福岡市は特区の指定を受けて以降、特区を活用してスタートアップ支援、またMICE誘致、それからまちづくり、こうした取組を進めているところでございます。また近年増加しております、クルーズ船の寄港への対応、これも重要になってくるかと思っております。このような取組を国・地方が一体となって進めることで、産業の国際競争力の強化、あるいは国際的な経済活動拠点の形成を図っていく必要があると考えております。今後とも福岡市として、アジアのゲートウェイ機能の強化を進めてまいりたいと思っております。ご指導・ご協力お願いいたします。ありがとうございます。

(麻生会長)

それでは九州地区町村会長会申し上げます。

**(九州地区町村会長会)**

町村会という立場で申しますと、現在九州に 126 の自治体がございます。小さいところは1千数百名から、大きいところは5万に迫るような千差万別でございますけれども、いずれにしても、体力的に1つの自治体で政策的に色々できるような体力はございません。そういう中で今回、12頁でございましたけれども、小さな拠点とか農村集落のあり方とか基礎的生活圏までしっかり計画に取り組んでいただいておりますし、また23頁には都市農村交流などこういったものも記載をされておりました。関係する拠点都市、また機関と連携を図りながら、そういったものを取り込んで、発展を考えていきたいというふうに考えております。以上でございます。

**(麻生会長)**

ありがとうございました。それでは九州総合通信局お願いします。

**(九州総合通信局)**

九州総合通信局でございます。素案でございますように、ゲートウェイ九州、それからコンパクト化とネットワーク化、災害に対する持続可能性の向上と、こういったものについては、まずは情報の収集、それによる状況の分析、その結果の共有といったものが基本になると考えておりますが、私共といたしましては、そういった活動をするにあたって、ICTというのが正にインフラになると考えております。このICTについては、昨今の技術的な進歩により劇的に変化が起こり、使いやすくなっておりますので、正に関係機関が連携してですね、ICTの利活用を促進していただくことで、こういった九州が抱える問題の解決、それから各プロジェクトの形成の取組と推進といったことに役立てればと考えておりますので、その方向で私共、必要な支援を続けていきたいと思っておりますので、是非よろしくをお願いします。

**(麻生会長)**

ありがとうございます。九州財務局お願いします。

**(九州財務局)**

九州財務局でございます。私共財務局は、予算の執行、財政融資資金の融資、国有財産、金融と幅広い業務を担当しておりますので、この計画の中の特定の分野、あるいは特定のプロジェクトに深く関わりがあるというよりは、そういった幅広い流れの中で、今後の計画策定にむけて、適切に対応してまいりたいと考えております。

**(麻生会長)**

ありがとうございました。それでは九州農政局お願いします。

**(九州農政局)**

九州農政局でございます。今回の中間整理の素案におかれましては、農産物・食品の輸出の拡大、それからブランド化、高付加価値化、食を介したインバウンドの拡大というような、新しい展開が盛り込まれております。予算事業その他、色んな事業がございますので、九州農政局としましては、この素案に基づきまして、しっかりと事業展開してまいりたいと思っております。以上です。

**(麻生会長)**

ありがとうございました。飛びまして、九州森林管理局お願いします。

#### (九州森林管理局)

九州森林管理局でございます。森林・林業の振興を推進しておりますけれども、会長からお話がありましたように、林業についても、元気な風が西から吹いてきているというのが特徴でございます。戦後40～50年前に植えた人工林が成長し、利用期を迎えてきているという中で、九州の森林は全国の1割しかないのに、生産量は25%となっており、全国的にみると非常に林業が盛んな地域でございます。また、今日の資料にもございますように、輸出が拡大してるとか、木質バイオマスの発電とか、林業界では特徴的に西からの風が吹いています。また、林業には、地域の雇用に直接つながっていくという特徴もございますので、私共も積極的に支援をしていきたいと思っております。以上でございます。

#### (麻生会長)

ありがとうございました。九州経済産業局お願いします。

#### (九州経済産業局)

九州経済産業局でございます。昨年3月に策定されました九州・沖縄地方成長産業戦略につきまして主として担当しておりますけれども、今回の広域地方計画におきましては、素案の策定段階から十分連携させていただきまして、今日中間整理を見ましても、成長産業戦略の事例ですとか、考え方を随所に散りばめていただき、深く感謝しております。特に環境エネルギーの分野、あるいは食の輸出、あるいは観光のインバウンド、それぞれ国土形成と関連が深い内容でございますので、この計画の推進に期待をしております。また基幹産業、地域産業の振興につきましては、計画のプロジェクト、20頁21頁あたりに様々記載をさせていただいておりますので、私共もその計画の実現に努力していきたいと思っております。以上です。

#### (麻生会長)

ありがとうございます。大阪航空局お願いします。

#### (大阪航空局)

私共の所掌は名古屋以西、沖縄まで担当しているのですが、本日の素案を拝見させていただくと、極めて九州の特徴が出ていて、他の地域に増してですね、非常に読み応えがあると見応えがあるとそういう内容になっているのではないかなというふうに思います。本当に事務局さん、ご苦労様でございました。

若干お願いしたいことがありまして、福岡空港が書かれているのですが、あとは北九州空港がその補完として書かれているのですが、他の県のところにもですね、3,000m級の空港は多々あります。そういう意味で他の空港についても、特にCIQの整備といいますか、まあそれぞれの関係省庁が中心にこれからしっかりやっけていなくちゃいけない、運輸局さん中心にこれからお願いしていかなくちゃいけない。これは実は観光とか、あるいは農産物の輸出なんかの決め手みたいな、中核、大事な施設になりますから、そういうふうな面でのCIQの施設というふうなことを考えると、その辺のものを書いていただくとありがたいなと。これは福岡以外にでもですね、こういうことが言えるのではないかなというふうに思います。

それから空港と道路といいますか、こういう観点でもですね、観光の面からもそうですし、産業の面の方からもそうですけれども、これは大事だなと思っておりますので、こういう面で何らかの記述があるとありがたいなというふうに思っております。

それから最後になりますけれども、九州は非常に離島が多くて、またそこに空港を自治体さんが本当に苦労されて整備されて、しかもその航空機の運航まで管理されている。これは非常に、努力なんですよ。他の地域にも無いような苦労をされているので、何かこういうふうなこともですね、何かの格好で記述させていただくと大変ありがたい。こういうふうに思います。以上で

す。

**(麻生会長)**

ありがとうございました。では第七管区海上保安本部お願いします。

**(第七管区海上保安本部)**

第七管区海上保安本部でございます。第七管区海上保安本部および第十管区海上保安本部におきましては、九州圏が南海トラフ巨大地震等の広域的な災害の発生や、様々な自然災害の発生が懸念されることから、海の安全・安心を確保するための活動を行っている海保として、県、市町村、関係機関と連携して業務を推進し、地域に貢献してまいりたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。以上です。

**(麻生会長)**

ありがとうございました。九州地方環境事務所お願いします。

**(九州地方環境事務所)**

九州地方環境事務所でございます。地球温暖化対策に絞ってお話させていただきます。九州地方は、その地理的な特性から、温暖化の現象が最も早くみられるのではないかとと言われております。一方で九州は、環境対策の取組でも先進地でございますので、そういったことを活かしながら、また環境省といたしましても、生物多様化保全の観点も含めて、関係機関と連携しながらこれに取り組んでまいりたいと考えております。その中で九州の特性を活かして、再生可能エネルギーによる発電等々が今後進められてまいると思います。こちらにつきまして、この中間整理の中にもありますとおり、景観、あるいは生物を含む環境につきまして、これはもう次世代に引き継ぐべき重要な財産でございますので、これらの両立が図られるよう関係機関の皆様と協力をして、進めてまいりたいと考えております。

また温暖化が進行しますと、台風水害等の自然災害が増加すると言われております。こちらにつきまして、それこそ大量の災害廃棄物が出てまいりますので、そういったことを迅速かつ適正に処理をしていくと。そういうために、関係機関と連携をして情報の共有化を進めるなどによりまして、平時の備えをしていかななくてはならないと言われております。こちら私共も引き続き努力してまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

**(麻生会長)**

ありがとうございました。それではお待たせしました。運輸局お願いします。

**(九州運輸局)**

九州運輸局でございます。中間素案の取りまとめに関しまして、委員の皆様から種々御意見を賜りまして、誠に有難うございました。

私共、九州運輸局といたしましても、公共交通や観光の分野の課題に取り組んで参りたいと思えます。私共手前のことでございますけれども、今年の7月に組織改編を致しました。これまでの企画関係の部を再編致しまして、特に重点的に取り組んでおります交通政策観光について、それぞれ独立した部として、交通政策部、観光部としたところでございます。この2部体制でそれぞれの政策を中心として、積極的に推進して参りたいと思えます。

特に観光につきましては、御案内のとおり今年の6月に、先程から会長が言われている広域九州アイランドとして「温泉アイランド九州」ということで、広域観光周遊ルート形成計画に認定されたので、これから計画の推進に向けて、受入環境の整備等々、関係の皆様方と積極的に取り組んで参りたいと思っております。本日はどうも有難うございました。

(麻生会長)

ありがとうございました。では最後になりましたが、九州地方整備局お願いします。

(九州地方整備局)

九州地方整備局でございます。本日は誠にありがとうございます。

今後、12のプロジェクトを中心として議論が深められていくと思っています。計画というのは、計画本文そのものもありますが、計画の策定の過程の議論というのが非常に重要だと思っています。議論が深まれば深まるほど、計画策定後も含めて、連携が強まっていき、また更なる検討を深めていくことにつながり、それがよい結果に導いていくことになるとと思っています。協議会の皆様には今後ともよろしくお願い申し上げます。以上です

(麻生会長)

ありがとうございました。

皆様発表をコンパクトにご協力いただき、ありがとうございました。

ニュアンスとしては、やっぱり自治体からは今回の九州地方整備局への調整へのお礼。やっぱり自分たち色んなこと言わせてもらったけれど、かなり入れていただいています、という気持ちをおっしゃる方が多いし、私も伺って、国の政策としてはさっき何人か勇気付けていただいた、やはり森林なんかはですね、九州は結構抜きん出てますよと。この表にも分かりやすく書いておりますけれど、輸出4割ぐらい。表面の養殖業と同じように、九州は1割経済どころか、農業は2割、森林の輸出と養殖業については4割のシェアを持っていますよとか。環境の方もですね、北九州市を中心に結構抜きん出てますよというようなことで、やっぱりこの環境というのはこれから永遠の地球上のテーマですんで、北九州市他が色んな技術を持っているというのは、これからひとつ九州の売りになるのではないかなというふうに思います。

私、ちょっと今日早めに終わったので、もうちょっと私の思いというか、期待というか、を皆さんと共にですね是非、やっぱり現役なんですね、我々は。今こうやって日本のブランドが信用されてる、ということは先輩のおかげです。次世代は苦勞します。煮詰まる日本ですから。1億2千万で、70億から80億、90億になっていくときに、1億を切っていくわけですから。この人口で、大きさを勝っていたGDPも一人当たりはたいしたことない。世界27位ですから。人口が減っていくというダメージは、非常に大きいと思います。ただ運の良いことに、やはり伸びゆくアジアが近いということで、ヨーロッパの人たちは非常に悔やむのは、やはり周りがF I Xで、全体が沈んでいくと。お前は伸びゆくアジアが15年20年くっついていないかと。ただ、やっぱりそのコミュニケーションとかですね、ロースキルとか規制とか色んな形があるわけですけど、私ビジネスマンとして、やはり日本のプレゼンスの落ち込みってのはすごいと思います。なめられているというか、評価されてないというか。やっぱり非常に先行きをですね、やっぱり伸びゆくアジアに比べて、煮詰まる日本の先行きというのは非常にやはりなめられている。存在感がない。という感じがするわけです。しかもこの国は瀕している。ということなので、やっぱりそういう感じでは現役の我々が、どうこの安倍総理が20年待ったデフレからどう脱却するか。ここ1~2年で決まる。去年も1~2年と言っていましたけれど、まだ1~2年が続いてるのですけど、中々計画が見えてこない。という中で、やっぱり我々現役が明るく感じ、しかもこの一番全国でポテンシャルのある九州で、現役でいるということと、今回の九州整備局から言っていた「新しい風を西から ゲートウェイ九州」ということを、東京に売り込んでいただいたんですね。これは非常にありがたいことだし、Thank You very muchじゃ終わらなくて。どうこれを使ってくれるの。お前たち地方は使うんだよと。ということで道を作っていたわけですから、やっぱり東京から見ると、地域間競争していると、やっぱり光っているのは、新幹線の通った北陸と、名古屋、名古屋というか東海、それと九州だと。東京の方は皆、3箇所が光

ってるぜ、九州が光ってるぜ、ということをおっしゃっていただけるわけですが、やっぱり地域間競争で、北陸の活況、東海の強み、今回もリニアが行ったりですね、非常に色んな形で、割り込んでます。そういう地域間競争でやっているなかで、どなたかがおっしゃったアイランド一体となって、一丸となってやっていきたい。

私はその、飯塚市という10万人のところに住んでいるのですが、ローカルってのは魅力あるんですよね。職がないとか、色んな教育の問題とか、この雇用の創出と教育レベルを上げればですね、あとは本当に、収入は7掛けかも知れないけれども、コストは7掛けですし、時間はもう都会と違ってたって便利。どこにでも車ですぐ10分という、そういうローカルの魅力という。ですから若者が帰ってくる。次世代の若者が帰る魅力をどう我々現役地方人がつくっていくか。総理があれだけ地方創生と言われているわけですから、帰ってこないのは、税制がもうちょっと工夫しろとか、いろんな注文ばかりじゃなくて、自分たちがどう魅力をつくるのか。何かやはりお話を伺っていると、昔の補助金が落ちたとかですね、税制でこう工夫しろとか、おねだり型のビジネスマン、行政マンが多いと思いますけれど。それはやっぱり次世代にどう残すかということですね、我々現役が考えていきたい。というふうにして、是非皆さんと一緒にですね。

こんな会議東京じゃないと思うね。省がまたがって。財務省も農水省も運輸省も居るっていう。国土交通省か。そういうのがいらっしゃって一緒にですね、語ろう。それで今回、しかもまとめていただいたわけですね。「西からの新しい風を吹かそう」ということを、まとめていただいたわけですから。これで Thank You very much で終わってはですね、「お父さんたち何しとったん？2015の時。これだけチャンス貰いながら、同じこといいよったん？」という。いつまでも続きません。この日本のブランドはですね。もうつかまります。そういう中で、このチャンスにどう伸ばしていくか、という先輩たちのお礼と、後輩たちに対する、次世代たちに対するやっぱりひとつの役割という、責任というのがあるんじゃないかな。すいません何回もですね。ちょっとラグビーの方で、昨日は負けましたけれど、ラグビーの方でちょっと気合いが入りまして。そういうことで、進めていきたいと思えます。

それでは、ただいまの皆様方からのお話に対し、ご意見・ご質問がございましたら、お願いいたします。このご質問・ご意見を聞いてから私は述べるべきでした、すいません。ご意見・ご質問お願いいたします。

ご意見、なかなか出ないんですけども。経済産業局いかがですか。ないですか。福岡県、何かない？はいどうぞ。ありがとうございます。

#### (福岡県)

ちょっと一件、全国計画の中で紹介されている、いい事業ということで紹介されてるんですけど、やはり対流促進というのが、今後進めていかなくはいけないのですが、そのイメージが中々つきにくいというのがちょっと本音です。

ナレッジキャピタル、大阪の例がですね、これいつも出ているんですけども、これ具体的にどういいのかという、ちょっと私が掴んでないこともありまして、どこか分かっているところがありましたら、ご紹介いただけたらなというふうに思っております。

#### (本東国土政策局長)

国土交通省の国土政策局長の本東でございます。今日は本当に麻生会長のご指導の下、大変皆様、熱心に前向きなご意見を沢山いただきまして、本当にありがとうございます。

今のナレッジキャピタルの話でございますけれども、審議官の方で説明した資料の中に出てまいります。これは、今回の国土形成計画を作るにあたりまして、2つ重視したことがございまして、1つは地域を重視するということがございまして、個性ある地方の創生というのが、いの一層に出てまいりますけれども、やはり地域から構造的に将来を考えて、それを積み重ねていって、

国の構造ができていくような、決してトップダウンではなくて、地域から国土をつくっていく、そういうつもりで地域中心の国土計画でございます。

もうひとつは人口が減っていく中で、どういうふうに日本の活力を維持していくか。これが対流促進ということですので、重要な要素はイノベーションということでございます。これも色んなイノベーションがあるわけでございますけれども、必ずしも世界最先端のものだけではなく、既存の技術を組み合わせて、既存の産業同士の連携で新しい商品を生み出す、ローカルなイノベーションというものも重視したいということでございます。そういうイノベーションを起こしていく上では、色んな個性を磨いて、個性と個性の連携、色んな専門家同士が、お互いに話をして、そういうこともあるんだという気付きを沢山生み出して、新しいものを生み出していく。こういうことをやりたいと。

もうひとつ考えましたのは、決してこのイノベーションというものが、産業政策、あるいは科学技術政策だけではないんだと。やはりこの地域政策と申しますか、都市政策、国土政策、地域づくりとしても重要なんだと。そういう意味で、こういったイノベーション分野の拠点、これは知的対流拠点と呼んでいますけれども、こういったものが必要だと、そういうことでございます。そういったもの、色んなものがあり得るのですけれども、それは更に検討を深めていく必要があるのですが、そういうもののひとつの例として大阪うめきたのナレッジキャピタルというものを提示させていただいております。ここは会員制になっておりまして、色んな企業の方、あるいは研究機関の方々がメンバーになって、それぞれのコラボオフィスみたいなものを利用できますし、色んな交流をするような仕掛けもありますし、色んなイベントも活発に行われていると。企業によっては、そういったところに実験的な店舗とか、ショールームみたいなものを出していらっしゃるというところでございます。比較的オープンしてまだ日の浅いものでございますので、ここで具体的にこれが出たというのはまだもう少しこれからということになるかと思っておりますけれども、先程申しましたような、色んなバックグラウンドを持つ専門家の方々、色んな方々がそこで交流して知恵を生み出している。そういう拠点として、非常に重要な取組みではないか。そういうつもりで、ここでご紹介させていただいているというものでございます。

#### (西脇国土交通審議官)

これは一回行ってみないと分からないんじゃないかなと。私もこないだ行って初めて、今までの単なる会議室を提供するだとか、ちょっとそういう集団を作るとかではないんですね。非常にオープンなところで、色んな人たちが話し合っている。会員の比率が半分とか、利用者ですかね。で、後は連れてくる人。一年間に何日間か使っている。色んな形の座る場所があって、完全に閉じたガラス張りの会議室も使えますし、そこに色んなファストフードとかカフェとかが、周りにそのままありまして。そういうのが非常に活性化しているなという感じなのですが。これは相当ソフトなところが多分肝なんだろうと思うんで、説明しにくいんです。非常にただ施設としてはそういう施設とか、あとプレゼンテーション用のっていうか、色んなところでプレゼンテーションしてまして、いわゆるプロジェクターとかそういうのも全部用意してあるとかで、それを会員になれば、年間かなりのところが使えと。そこに色んな方が来られてるんで、その集団はもう学生の方もあれば、企業の方もあれば、全然関係ないひょっとすると地域のそういう活動のサークルなんかもあるかもしれませんが、一定の会員費を払って会員になると、多分そのシステムが非常に受けているのと、やはり立地が駅の近くで良いっていうことに、段々申し込みが増えてきて、広がりが出つつあるということで、また成果が出てくるのはまだこれからだと思うんですけども、私が説明を聞いた限りでは、ちょっと他のところのプロジェクトのものとは少し印象が違ったということなんですけれども、中々口で説明できない。是非一度行かれたらいいかなと思います。

#### (福岡県)

ありがとうございました。

**(麻生会長)**

こうやって質問すると、本省の方からボロボロすごい情報が沢山出てまいりますけれど、他、よろしゅうございますか。

分かりました。

**(4) その他**

そうしたら、最後に議事4のその他であります。何か他にもご意見・ご質問があればお願いします。

では、特に無いようですので、新たな広域地方計画中間整理の素案につきましては、本日の資料の内容でご了承いただいたものとして、とりまとめさせていただきたいと思いますが、皆様よろしいですか。

よろしゅうございますか、ありがとうございました。

それでは今後は計画原案の策定となりますけれども、一律全国の動向などを踏まえながらですね、進めていただきたいと思います。

これで本日予定されていた議事は終了させていただきます。非常にスムーズに進行させていただきました。ありがとうございました。

**4. 閉会**

**(事務局)**

麻生会長、議事の進行ありがとうございました。また、本日ご出席いただきました皆様方には、多くの貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。

それでは、これを持ちまして、第4回九州圏広域地方計画協議会を閉会させていただきます。

まことにありがとうございました。

以 上